



広島城北高等学校サッカー一部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



集いの場『最上段』

19回生 吉川 英司

皆様こんにちは。19回生、OB会長の吉川です。
東京オリンピックも開会式まであと数日となってきました。本日に開催するんだなど微妙な心境ではありませんが、どうせ開催するならば、ルールに則り選手をしっかりと応援しようと思っております。

しかしこのコロナにおける「社会情勢の変化」により私たちの生活環境もすっかり変わってしまいました。これでもワクチンの接種率UPとともに徐々に収束へ向かって欲しいなあと思っております。

先日、宮本監督より中学生のユニフォームを高校のユニフォームと同じにするよと連絡がありました。

この連絡に私はかなり「喜びを感じ」ました。広島城北学園の中高一貫校のメリットをなかなか発揮出来ていない現状を鑑み、ようやく何故か統一できていなかったので、会社で言えば制服が一緒になるのです。

これから中学スタッフ・高校スタッフが一体となって高校3年時には5年半がかりでのチーム造りが実現するのです。OBの皆様、期待しましょう！

ここ2年間はコロナの影響で「初蹴り」も開催できておらず、「夏の合宿」も特殊な形で運営を余儀なくされています。

が、我々「最上段」のOBは他校からも批判を受ける所作をせすしっかり出来ることを粛々と対応していきましょう。

私、吉川も個人的にはありますが、会社を今年3月末で「早期退職制度」にエントリーし退職。

広島に帰り、現在、株式会社「最上段」を設立し代表取締役となりました。

広島市内、中央通りでDaininng Bar Saijodan(ダイニングバー最上段)を7/1にオープンしました。(コロナ禍に...)

またコロナ落ち着き時期が来れば皆がバラバラ集まり、「現役の話」「芝生化の話」「会社のストレス発散」「BTOB窓口」

などが話せる場所が提供したく、全く迷うことなく、法人名・店名「最上段」としました。気軽に顔だしてください。

来年の1/3には「初蹴り」が開催出来る、皆さんと久しぶりにお会いできる事を楽しみにしています。

では、今年の現役の活躍を全国各所で応援しつつ期待しましょう！

最後に広島在住のOBは広島シティ

リーグに参加しているOBクラブの参加をお願いいたします。窓口は権田(22回生)です。PS:フェイスブック(FB)を最近始めたのでいきなり私から申請が飛ぶ事あるのでその際には承認よろしく！



培われたコミュニケーション

52回生 竹本 航大

はじめまして。この度、OB会報誌の執筆をさせて頂く、52回生の竹本航大と言います。拙い文章で恐縮ですが、最後までお付き合いください。

さて、自分の近況ですが、この春、無事に同志社大学を卒業致しまして、広島県庁で社会人としての一歩目を踏み出しました。大学生活を振り返ると、新たな仲間とも出会い、高校卒業時には考えられなかったような様々な経験をする事ができ、自分の中ではこれ以上ないというほどの大学生活を過ごせたのではないかと感じております。名残惜しくも、卒業した現在では、初めての仕事というものの、まだまだ戸惑い、悩みながらも、生まれ育った広島県に少しでも貢献するべく、奮闘しており、とても充実した日々を過ごすことが出来ています。

そうした日々の中で、城北サッカー部の教えが生きているな、と感じることが多々あるように思います。研修で社会人としての基礎を教わっている時や、仕事をしている中で、これと似たようなこと、サッカー部でも聞いたことあるわ、となることがあります。当たり前のことである、自分も周りの人も気持ちよく過ごせるように気持ちのいい挨拶をすることや身の回りを綺麗にしておくということだけではなく、目の前のことにひたむきに取り組み、しんどいことにも本気でぶつかると、またチームとして組織の中で新人の自分に何が出来るのか考え、実行する力など、広島城北サッカー部で学んだことが、サッカー以外のところでも活かしているのだと感じております。たかが、数か月の新米が何を言っているんだと思われるかもしれないですが、自分はこの数か月を通してそれを強く感じており

ます。思えば、自分たちの代は、中学生の頃はキャプテンについて行ってばかりの、金魚の糞と揶揄されていたチームでした。それが、最上段で日々成長していくことで、引退の時にはそれぞれが、チームの中で貢献できるポイントを探し、主体的に行動できる熱いチームになっていました。自分自身のことを思い返してみても、最初は何も考えずについていくだけの正に金魚の糞でしたが、高校の最後にはチームのために自分ができると、やるべきことを考え、自分から動き出すことが出来たからこそ、結果はどうであれ、悔いのない高校サッカーになったのだと感じています。多分、これは52回生全員が感じていることであり、そんな経験があったからこそ、現在もそれぞれの場所です活躍しているのだと思います。

先日、広島に帰ったことの報告に久しぶりに城北を訪れました。短い時間でしたが、すれ違う城北生、そしてサッカー部は、とてもいい顔をしていたように思えます。最上段がこれまで、そしてこれからの色んな人達にとって、原点であり続けるのだと強く感じました。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、再び初蹴りで現役生とOBの皆様が最上段で集まれる日が来ますように、健康をお祈り申し上げます。拙い文章でしたが、最後までお付き合いいただきありがとうございます。

「対話」

54回生 川本 峻

初めまして。54回生の川本峻です。この度、宮本先生よりお話を頂き、OB会報誌を執筆させて頂くこととなりました。このような機会をいただきありがとうございます。

私は現在、広島修道大学商学部経営学科の3回生です。また、高校卒業と同時にOBコーチに就任させて頂いたこと、最上段で選手と共に顔晴っています。兄は49回生の大喜です。小さい頃から兄の試合を毎週末見に行っており、そのようなクラブに現在も関わることができ、光栄に思うと同時に大きな責任を感じています。余談にはなりますが、小さい頃試合を見に行った際に、生憎気だつた私と遊んでくださった多くの先輩方にこの場をお借りして感謝致します。(笑)

さて現役チームですが、4月に行われた県総体予選で敗退後、3年生が全員引退し新チームとなりました。近年、一学年の人数が少なかったのですが、1年生が多く入部してくれたことで少しづつ元

気が出ています。この新チームの目標は、来年度の新人戦「ベスト8」進出です。しかし、緊急事態宣言の発令により恋蹴ができない時期があるなど、選手自身もモチベーションを保つのが容易ではないと思います。ただしそのような状況下でも、選手たちにとっては限りある高校サッカーの時間です。この状況下で何をやるのかも大事ですが、それ以上に「最上段の恋蹴で100%の力を出しているのか？」が非常に大事だと改めて感じました。このことについて選手に伝えることはもちろん大事ですが、自分自身も改めて気持ちを引き締めたいと思います。私は指導をさせて頂いた上で大切にしていることがあります。それは全ての選手と「対話」をすることです。恋蹴前後に最上段だけでなく部室などでも、選手のレベルに関係なく積極的な話をします。特に私は、トップチームの試合に出場する機会が少ない選手と多く話しかけが私があります。それは高校三年生の時です。私を含め二人で選手権に残り、私はキャプテンをさせて頂いたことがありました。その時の後悔として、恋蹴や試合を休む何人かの選手をチームに巻き込めなかったことがあります。一体感やチームの士気を上げ、恋蹴のレベルを上げることに繋がると思っていました。当時の私はその問題から逃げていました。この出来事は現在も後悔していることであり、他人と向き合って本音で話すことの大切さを学びました。実際多くの選手と話していると、サッカーに対する情熱やチームに対する意見、さらには意外な趣味など数多くのことを知ることが出来ます。全てのことに共通だと思えますが、自分の先入観だけで人や物事を判断せず、自分で調べることが大切だと改めて感じました。そのため私は選手に年齢が一番近いコーチとして、これからの多くの選手と「対話」をして寄り添い、チームの勝利に貢献したいと思っております。



